



大阪大学医学部附属病院

THE UNIVERSITY OF OSAKA HOSPITAL

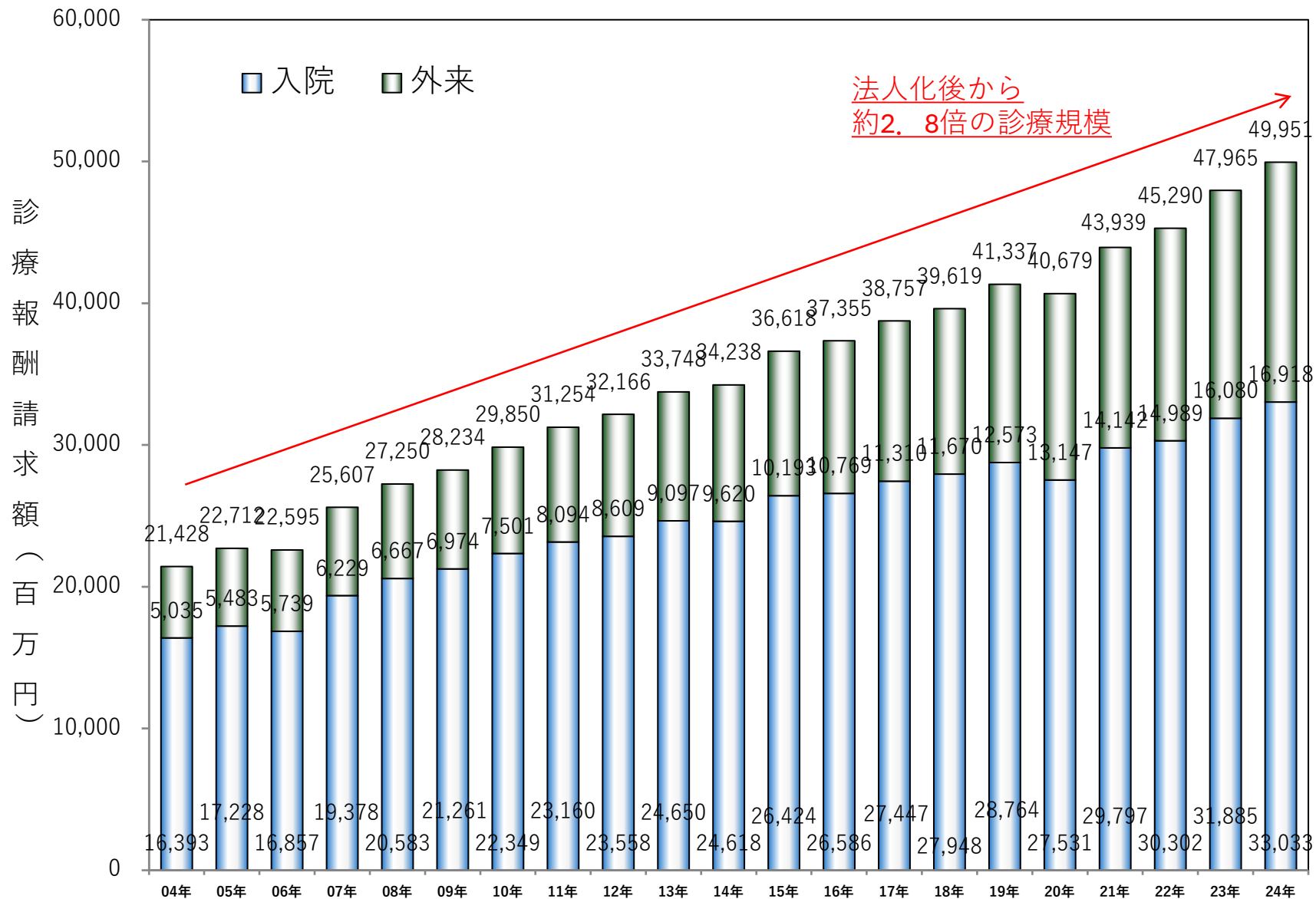
阪大病院の現状と未来

管理課 課長補佐 赤木 剛

2025年11月6日

大阪大学医学部附属病院の運営状況(経営)

診療報酬請求額



大阪大学医学部附属病院の研究推進(臨床研究中核病院)

医療法(※)上の臨床研究中核病院(全15病院)

(2025年5月現在)

※医療法第4条の3第1項

☆本院は全国に先駆けて、「医療法上の臨床研究中核病院」に承認されました。

【厚労省承認年月日】

- (1) 2015年 8月 7日: **大阪大学医学部附属病院** 東北大学病院
国立がん研究センター中央病院
- (2) 2015年 9月29日: 国立がん研究センター東病院
- (3) 2016年 1月27日: 九州大学病院 名古屋大学医学部附属病院
- (4) 2016年 3月25日: 東京大学医学部附属病院 慶應義塾大学病院
- (5) 2017年 3月23日: 千葉大学医学部附属病院 京都大学医学部附属病院 岡山大学病院
- (6) 2018年 3月23日: 北海道大学病院
- (7) 2020年 3月24日: 順天堂大学医学部附属順天堂医院
- (8) 2021年 4月 7日: 神戸大学医学部附属病院
- (9) 2023年 4月10日: 長崎大学病院

大阪大学医学部附属病院

九州大学病院
長崎大学病院

岡山大学病院



名古屋大学医学部附属病院
京都大学医学部附属病院
神戸大学医学部附属病院

国立がん研究センター中央病院
国立がん研究センター東病院
東京大学医学部附属病院
慶應義塾大学病院
千葉大学医学部附属病院
順天堂大学医学部附属順天堂医院

東北大学病院

北海道大学病院

“治す”から“支える”へ 再開発の第二章が始まります

再開発事業の第2弾では、現在の外来棟を解体し、その跡地に新たな病棟を建設する計画です。
また、その前段として、統合診療棟と既存病棟を繋ぐ接続パスの整備も予定されています。

1993年の全面移転以降、病棟の部分的な改修はこれまでも行ってきましたが、構造的な限界もあり、療養環境が時代のニーズ（個室化、スタッフステーションと病室の配置、アメニティの充実、患者動線等）に合わなくなっています。統合診療棟整備で治療施設は機能強化されました。次は治療を行った患者さんが安心・安全かつ快適に療養できる環境整備、すなわち病棟の再整備が必要です。

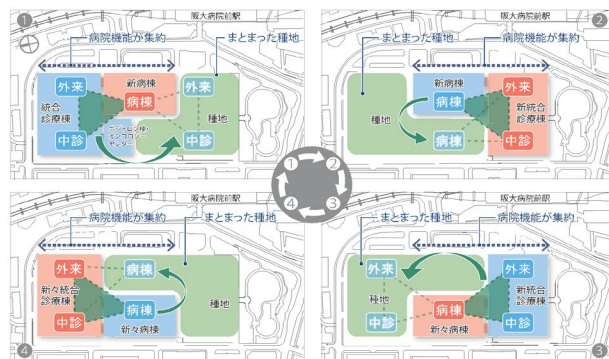
再開発のコンセプトは、“Futurability待ち遠しくなる未来へ。”です。何卒、本事業の趣旨にご賛同いただき、今後の再開発事業（病棟再整備等）にご支援を賜りますようお願いいたします。



新病棟イメージ

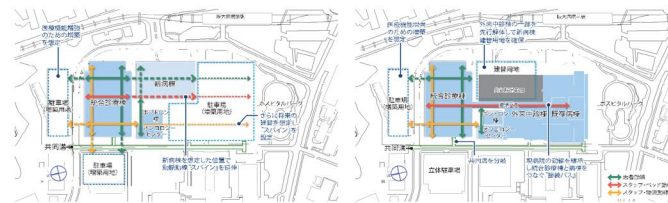
将来の建替マスタープラン

永続的な『トライアングル・ローリング計画』



- 外来・中央診療・病棟の3つの機能の連携を確保しながら永続的にローリングを行うことのできる計画とします。
- 将来的に外来・中央診療・病棟が南北に分散しないように、北側や南側に寄せ一固まりでローリングできる計画とし、常に各棟を最短で接続します。
- 上記により種地をまとめて設けることで、今後の医療機能の変化に対応できる余地を確保します。

将来にわたり各建物を結ぶ動脈動線『スパイン』



- トライアングル・ローリング計画に基づき、将来建替を想定した動脈軸を設定し、常にさらなる将来建替時に接続対応可能な動脈動線『スパイン』を計画します。
- 南側の新病棟への将来接続対応に加え、北側の看護宿舎跡地、西側の立体駐車場を種地にした医療機能の拡張に対応可能な動脈計画とします。
- 統合診療棟の廊下の端部をオープンエンドとし、渡り廊下で将来接続可能な計画とします。